

ではありませんけれども、例えばその中の備品を買うとか、いろんな方法はあるかもしれませんが、このミニ公募債なんていう考え方もこれからはぜひ検討に入れていただきたいというふうに思っております。

以上で質問を終わります。

梅津善之議員の質問

○小関勝助議長 次に、順位11番、議席番号2番、梅津善之議員。

(2番梅津善之議員登壇)

○2番 梅津善之議員 おはようございます。

6月定例会での最後の質問者になりました。一生懸命やりますので、よろしく願いいたします。

朝、庁舎を入ってきますと、あやめの花と新しくできた白つつじの下に多少草が生えておりました。さらには、ナデシコの花も何か、私が入っているように窮屈なように、ナデシコセキチク科なんです、新しい花壇も何か窮屈なように植わっていて、これから伸び行く花がちょっとかわいそうかななんて思って毎日見ております。

では、通告に従って質問したいと思います。

1点だけの質問でございます。レインボープランについてということで、質問を随時していきますので、よろしくご答弁お願いします。大きな意味で市長に、詳しいところは農林課長から説明を受けたいと思います。

レインボープランってすごいねと、私がちょうど農業を始めて二、三年たった後のことでした。市外の方から、いろんな面で言われたことがあります。長井市に住んで誇らしいなと思う気持ちになったことを今でも忘れることができません。私は、農業を始めて間もないばかりで

したので、農家に生まれながらにして、手伝いなどはよくしておりましたが、物をつくるということについては全く無知でございますし、全然勉強もしてきませんでした、での農業のスタートでした。自分で作物をつくるというのはなかなか難しいもので、今ある化学肥料と有機質の堆肥を組み合わせながら、一生懸命自分の農業に今現在も取り組んでおります。昔ながらの農業を言わせてもらえば、家畜のふん尿や田畑の畔の草を集めて、それを田畑に戻して、有機質のある腐食に富んだ田んぼや畑をつくっていくというのは、私のうちでも同じようなことを実践してまいりましたし、今私がやっている農業も、その基本となるものと思ってやっております。レインボープランの理念に全く即した農業だなと自分自身も思いながら、レインボープランはすごいなと思って携わってやってきました。自分がおやじから田んぼの肥やし振りを任せられたときも、おまえでも10俵はとれっこでと言われて任せられました。そのころは何の意味かもわからず、無我夢中で農業をするしかなかったでした。何年かすると、その意味がわかりました。いわゆる自分が受け継いだ土地というのは、おやじや祖父、その前も、何年もかかってできた有機質に富んだ腐食のある立派な田畑だったということです。どんな暑い日も、どんなに寒い日も、季節が変わろうと、田んぼや畑は何も言わずして実ってくれます。私が農業を始めて私がつくったからではなくて、その土がそのようにさせてくれるものだなとわかったのは、何年もたった後のことでした。

そんな話をしながら、レインボープランについて質問したいと思います。

誕生の発端というのを調べてまいりました。台所と農業をつなぐ計画、97名の市民が参加した昭和63年のまちづくりデザイン会議で、農家の方が、土が弱っていると発言したことをきっかけに始まったと伺っております。1961年、農

業基本法が制定されてからきょうまで、大量消費のための大量生産を狙いとする化学肥料、農薬を利用した農業が続けられ、土の疲弊を招いてまいりました。化学肥料や農薬を使って農業をしてきた土地はやせ細ってしまい、なかなかもとには戻らないと私も思っております。持続する農業、健康な作物をつくる農業、農地に堆肥を入れ、微生物を育む豊かな農地を再生する必要がある。堆肥の原料となる有機質資源を台所から出るごみから得ようとしたのが、レインボープランの始まりとなっております。

今でも可燃物として燃やされていたごみが、堆肥として生まれ変わり、農地の再生をしようとする発想はすごいと思います。先ほども申し上げましたが、私自身の農業もそのように思っております。

長井市は、田舎町として台所と農地が一番近い関係にあります。しかし、地元の作物は、まちや学校の頭を越えて大都会の大量消費地へと流れ、市内の店頭にはなかなか出回らない現実がありました。平成4年の実態調査では、地場農産物の自給率はわずか6%前後。そのため、消費者と農業の距離を縮めるために、平成9年2月に運用が始まりました。レインボープランが稼働して17年目を迎え、市民の5,000世帯の生ごみのほとんどが堆肥に変わっております。それまで可燃ごみとして焼却されていた生ごみが、有機質資源として生まれ変わり、市民の田畑に返され、そこでできた作物がまた市民の台所に届くという、地域内循環のシステムとして高く評価されております。

現在、レインボープランは、中央地区のごみを回収しています。さらに、中央地区外のごみも回収を行い、さらにたくさんのごみを処理できるような施設に改修していくことや、レインボープランの農産物が今よりもっと市民の口に入る一層の地域循環にしていく必要があると考えます。

また、レインボープランのコンポストセンターの稼働が始まって17年目に入り、建物の老朽化などが危惧されております。一昨年もモーターが故障して2カ月も中断するという事態がありました。今のままのコンポストセンターを修理しながら維持していくのか、また、まだまだ大量に処理できるようなコンポストセンターに発展していくのか、また、その他の方法でいかを判断すべきときに来ているのではないかと考えております。市長のご答弁をお願いしたいと思っております。

3番目のレインボープランの堆肥についてです。堆肥の質の問題です。

今までは土改剤として利用してきたことがあると思います。それをぜひパワーアップしていく必要があると考えます。私自身、みずから堆肥をつくって使用しているわけですが、家畜のふんや生ごみを集めてさまざまな方法で堆肥をつくってまいりました。

一つ例を申し上げますと、まず地域の畜産農家に堆肥をいただいて、それに米ぬかといわゆる菌体、バイオ21という菌体でございます。それを入れながら切り替えし、攪拌すると、2カ月もすればにおいもなく、においも全くないわけではないですが、甘いにおいのする堆肥に変わります。それを田畑に返して農産物の作物を生産しております。花の生産にも、その堆肥を使っております。非常にその土が生き返るといいますか、かたかった土がふんわりとやわらかくなる、目で見てもわかるような状態に変わってまいります。作物も当然ながらよくなります。

その他、菌体のことを二、三申し上げさせていただきます。

市内でも利用している方がいらっしゃると思いますが、EM菌、発酵資材のEM菌でございます。80種類もの微生物の共生体です。もともと農業の効果を上げるために開発され、今では畜産業、水産業、飲食業、清掃業など、いろいろ

ろな分野で活躍しております。例えば畜産業では、悪臭の減少、家畜死亡率の減少、害虫の減少などに役立っているということが事例としてあります。農業への使い道はやはり肥料という使い方です。堆肥化するときのにおいも軽減され、発酵の時間も短縮されます。また、質のいい堆肥となるそうです。できた肥料は農産物の植えつけ前にも、成長中にも利用されます。当然病害虫の防除になり、細胞が活性され、生産性が高まる効果があります。北海道のある農家では、米、小麦、大豆栽培にEM活性液を使っています。この農法を取り入れて10年になるそうですが、普通栽培と明らかに変わった結果が出ているのは、さまざまな紙面で紹介があったと思います。

その他、菌体では、私が使っている中には、えひめA I、リーサル発酵サルパーS、内城菌など、さまざまな菌体を使うと、もっと腐食に富んだいい堆肥ができることは実証済みであります。ぜひ長井市のレインボープランの堆肥の中にも、土着菌はもとよりでございますが、ぜひこのような菌体を使ってもっと有効な堆肥、レインボープランのコンポストに変えていく必要があると考えますが、いかがですか。

4番目の質問です。16年間、ことしで17年目だと思いますが、現在までの農産物です。レインボープランの農産物として出荷され、生産されているものがどのぐらいの推移で生産され、出荷されてきたかをお伺いします。

私自身、農家を始めてレインボープランがスタートしたときに、大量に購入して使いました。私の生産が未熟だったのか、ですが、なかなかうまく生産できなかったのを今でも覚えております。そして、ことし、新しく土地改良してできた田んぼに、約4トンのレインボープランの堆肥を投入して米の生産をしております。ぜひ秋が楽しみでございますが、ぜひその辺のデータなどあれば教えていただきたいと思います。

最後に、今後のレインボープランのプラントの建設や更新も含め、市長の大きな方針についてどう考えておられるかお聞きして、壇上よりの質問といたします。ありがとうございました。(拍手)

○小関勝助議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 梅津善之議員からは、レインボープランについてのご質問をいただきました。順次お答え申し上げたいというふうに思います。

まず最初に、地域循環していないのではないかとというようなご質問でございます。

梅津議員からはレインボープランについて詳しく、今まで苦労されて市民の皆様が構築してきたものだというのを、一般質問の中でご披露いただきましたけれども、レインボープランは台所と農業をつなぐ循環型社会のシンボルとして推進し、長井市のまちづくりにおいて重要な役割を担っております。その評価は、梅津議員おっしゃるとおり、国内外からも高い評価を今なおいただいているところでございます。

レインボープランが生まれた背景は、土壤疲弊の回復と地方の自給率の低下の復元というのがあったと言われております。そして、地元で生産された農産物を地元の食卓、消費者に届ける、町と村をつなぐ人の輪の循環、台所と農業をつなぐことを目的にしております。生ごみ回収の地域は市街地に限られまして、堆肥はその周辺の農地に返し、安全な農産物は消費者である台所に届けられる地域循環システムになっているというふうに考えております。

コンポストセンター建設当時、長井市全域での生ごみ回収も検討されました。これは以前梅津議員からもいろいろご指摘いただいたところですが、どうしても中央地区と違って周辺地域になりますと、場所によっては回収コストや、農家が多い周辺部には肥塚ですね、いわゆる。そういった有機質堆肥といえますか、これを各戸がつくり農地に還元する機能を大方の方がさ

れているということで、現在も中央地区に限った収集範囲になっております。循環は、各市民直売所等によりまして、現在、長井市全体の中で行われているというふうに考えております。いろいろご指導賜りたいと思います。

2番目の、コンポストセンターの更新についてですが、これは議員ご指摘のとおり、平成9年に稼働開始から、ことしで17年目を迎えて、施設の老朽化は著しい状況でございます。これまで緊急発生する不具合に対し、その都度修繕等の対応を図るとともに、日常的な施設管理を行ってまいりました。突発的な不具合による稼働停止を未然に防ぎながら安定稼働を実現するため、昨年度専門業者による点検業務を委託し、それにより、中長期的な補修計画を策定し、効率的で集中的に補修を実現すべく検討したところでございます。永続的に堆肥化事業を持続可能とするため、現在の堆肥化方法、堆肥化プラントの補修方策の検証を行う一方で、より効率的で省力化、費用軽減を可能とするプラントや、市内全域から収集した場合の費用等を試算し、新たな施設の検討をしていくことも必要であろうと考えております。

なお、以前から議員の皆様からもご提言いただいております、レインボープランのプラントそのものを地元の製造業の皆様のお力をおかりして新たにつくっていくべきではないかというようなご提言などもいただいておりますので、昨年、一昨年と農林課を中心にいろいろ検討いただきましたが、プラント自体は、やはり今はもう一般化されていて、特許とか、そういったことではなくて、いかにその土地土地に合ったプラントをつくっていくかということで、長井市のコンポストセンターについては、再度全部新しくするという必要はないのではないかと、いうふうにも今のところ考えておまして、したがって、いわゆるコンクリート部品以外のところで、やっぱり腐食の激しいところとか、そうい

ったところをやはり改修していくというのが現実的じゃないかというのが現在の状況でございますが、なお、今後新たな施設の検討も再度行うべきだろうというふうに思います。

3番目の、レインボープランの堆肥についてでございますが、現在生産されるコンポストについては、毎年成分検査を行っているものの、その有効性のPRについては不十分ではないかなど、これは反省しているところでございます。

現在、レインボープラン推進協議会において、コンポストの実証圃場により、コンポスト堆肥による有効性を実証すべく検討しておまして、これまでご利用くださった農家の皆様からもそのような情報を収集して、土壌改良としてのコンポストだけではなく、成分としての有効性も検証したいと考えているところでございます。

梅津議員からは、EM菌の例えば活用などの具体的な例を今お示しいただきましたけれども、さまざまな有効な菌体を使うということも、以前から市民の皆様からいろいろご提言いただいております。ただ、やはりレインボープランは地域循環ということから、梅津議員がおっしゃるように、土着菌による発酵というのが一番自然ではないかというような考え方などもございまして、やはりその辺は、レインボープラン協議会の皆様とも今後前向きに検討しながら、どういった形がいいのか、ぜひ検討していかなければならないというふうにも思っております。

レインボー農産物についてでございますけれども、レインボープランのまち長井、人や環境に優しく、安全安心な長井の農産物づくりをレインボープラン認証制度により推進しているところでございます。学校給食へも使用し、子供たちにもレインボープランというものを学んでいただく取り組みしております。最近では、虹の駅などを中心としたレインボープランを実践しているNPO法人等々が、直接学校給食調理場のほうに一定の量をきちんと納めるような努

力をさせていただいて、子供たちにも栄養価の高い安心安全な農産物を届けようということで頑張っております。私どももそれを支援するとともに、新しい生産面積等については、後で農林課長のほうから答弁いたさせますが、レインボープランの認証農産物の生産量は、コンポスト堆肥の生産量が限られていることや、生産者の高齢化、減少等により、残念ながら減少傾向にございます。その認証農産物の生産量をふやしていただこうと、レインボープラン等の認証農産物については、市民直売所に置いて販売した場合、販売額の5%の支援ということで、バックですね。手数料をそんなことで、レインボープランの里の認証なども努力しているところですが、今後も粘り強く生産拡大に向けての取り組みを行っていきたいと思います。

最後に、今後の大きな方針ということでございますが、繰り返しになりますけれども、レインボープランについては長井市のまちづくりの大きな柱の一つであり、レインボープランといえば長井市、長井市といえばレインボープランと言われるほどになっております。したがって、レインボープランは今後も永続的に続けていくというふうに考えており、長井市のいわゆる市政功労として唯一の団体でもございます。その施設については、先ほども若干触れましたけれども、現在の建設の大規模補修を行い続けていくのか、また新たな施設を建設し、中央地区以外を含めて市内全域から生ごみを協力いただくのか、今後検討していかなければならない課題だと考えています。

また、一般農家の堆肥散布については、レインボープラン推進協議会や畜産農家等の散布機械をお持ちの方々のご協力やご理解を伺いながら対応を検討してまいりたいと思います。

私のほうからは以上でございます。

○小関勝助議長 孫田邦彦農林課長。

○孫田邦彦農林課長 梅津議員のご質問にお答え

いたします。

今、市長からありましたので、私のほうからは補足的に説明をさせていただきたいというふうに思います。

まず、1番目の地域循環についてでございますが、菜なポート等の直売所ができてからレインボー野菜などの認証作物が広く消費者の目に届くことになり、着実に循環の輪は広がっていると思っております。レインボープラン等の認証農産物の市民直売所での販売状況でございますが、平成22年度より認証農産物の販売額に対する5%補助を行っており、その補助金ベースでの状況でございますが、平成22年度は17万8,000円、平成23年度は37万6,000円、平成24年度は49万8,000円と順調に伸びており、地域循環も拡大傾向となっていると思っております。

3番のコンポストの堆肥についてでございますけれども、コンポストの堆肥についての機能等の充実でございますが、EM菌などの有用微生物群が土づくりの生物性に有効との情報があり、レインボープラン推進協議会での試験やその結果を見ながら、情報収集等を行い、良質な堆肥づくりの検討を進めてまいりたいと考えております。

続きまして、4番のレインボープラン農産物の認証状況でございますけれども、平成10年度が米が8.8ヘクタール、野菜が2.4ヘクタールで、合わせまして11.2ヘクタール、あと15年度には米が10.2ヘクタール、穀類が3.4ヘクタール、野菜が5.2ヘクタール、合計いたしまして18.8ヘクタールでございます。そして、平成20年度がピークとなっておりまして、米が23.8ヘクタール、穀類が6.2ヘクタール、野菜が3.1ヘクタールと、合わせまして33ヘクタールとなっており、24年度においては米が11ヘクタール、穀類が5.6ヘクタール、野菜が3.4ヘクタールで、合計20ヘクタールとなっており、栽培面積は年々減少している状況でございます。

レインボープラン認証の作物の生産拡大と本市農産物のブランド化を図るため、市民直売所での販売価格に対する5%の補助につきましては、今後も続けさせていただきまして、生産者の負担軽減や生産拡大へと結びつけてまいりたいというふうに考えております。以上でございます。

○小関勝助議長 2番、梅津善之議員。

○2番 梅津善之議員 それぞれ答弁ありがとうございました。

レインボープランの農産物もなかなかふえてこないという現実を見て、長井のまちづくりという非常に重要なレインボープランを、私自身、何とかしていかなねという思いで発言しておりますので、決して気分悪く、市長、なさらないで聞いていただきたいんですけども、何ていうかな、循環していくことがすばらしいなと私も思っているんですけども、現実としてなかなか循環してこないし、市民が手にとるようにはわかってこないというのは、その根本の堆肥に問題があると私は思っています、何度も足を運んで、においのするところで作業員の方と話をしたりしてきました。やっぱり必ずこの菌がいいとは申し上げませんが、生ごみを堆肥にするというのは、なかなかそう簡単なものではなくて、時間もお金もかかることだなどいうのを、自分自身がやってみてそれはわかることなんです。それで、立派なプラントもあって、そこでちゃんとしたコンポスト、いわゆる堆肥ができれば、必ずこれは自然と広がっていくはずなんです。そこをもう一回きちっとやって、市内の循環に努めて、中央地区だけでなく、私の住んでいる地区なんかは当然肥塚なんかもつくれない住宅地になってきましたし、全体をクリアするような考えを持っていかないと、なかなかその実感できないのではないかなと日ごろから思っている次第です。

だから、その辺をぜひ、例えば米ぬかだけで

も全然違うはずですよ。土着菌でもそれは私は悪いとは決して申し上げませんが、そういうチャレンジとかね、そういうことをやっていたらいいなと思っておりますので、前向きに検討していただけるということなので、ぜひさまざまな菌体を、私もいろんな形で提案していきますので、やっていただきたいなと思います。その辺、市長、いかがですか。

○小関勝助議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。梅津議員おっしゃいますように、堆肥そのものの量もあるんでしょうけども、使いやすさとか、その効果とかというのは、やっぱり重要なのではないのかなと思います。ただ、残念なことに、私もまだまだ認識不足ですし、コンポストセンターも年に1回か2回ぐらいしか行っていないという状況ですので、ぜひ農林課と、あるいは推進協議会の皆さんとか、あとはそういった堆肥のあり方について、EM菌を、あるいはそれ以外の有効な菌体を使うという方法もぜひ取り組むべきだという声は大分いただいておりますので、職員ではなかなかわからないものですから、ここが問題なんですね。やっぱりそういう技術的なところをきちっと管理する体制が余らないと。今、委託をしているわけですけども、その委託を受けていただいているNPO法人なんかも、かなり詳しい方もいらっしゃるはずなんですけど、そういった新たな取り組みをする際にはそれなりの体制を整えないと、なかなかやっていけないのかなというふうに思っていますので、先ほどの繰り返しになりますが、やはりそのあり方も含めて、今施設が、議員おっしゃるように、大きな岐路に立っているわけですから、いろいろ大規模修繕でいくのか、あるいはもう少し新たなシステムを含めて全面改修でいくのか、そういったところなどを堆肥のあり方も含めてぜひ検討させていただきたいなと思いますので、梅津議員はその菌類についても詳しいというこ

とでございますので、ぜひいろいろご指導いただければというふうに思います。

○小関勝助議長 2番、梅津善之議員。

○2番 梅津善之議員 ぜひ菌を使って、有効な堆肥に変えていくような努力を一緒にしていきたいものだなと思っております。

あと、そのプラントのことを、市長は大規模改修も含めてというようなお話がありました。本当にやってみて、私、思うのは、非常に単純なプラントで問題ないと思うんです。今ある一次発酵槽のモーターで攪拌してくる、そして二次、三次と倉庫に置かれてくるというふうなやり方も、それは決して悪いとは思いませんけども、いわゆるその発酵槽が升になって、ただあるだけで、いわゆるコンクリートにエアレーションという空気を発酵するようなシステムさえあれば、後はタイヤショベルで職員が日々切り返していくと。その際には、多分今のプラントには入っていないと思うんですけども、投入時に破碎していかないと、細かく砕いていくようなシステムさえあると、十分それでおれいけると思いますし、特注で何カ月もかかるようなモーターなんかを使わなくても、今あるものはそれは利用して全然構いませんけども、簡単なプラントで、それも何人の議員の方もご指摘あったように、十分やっているとと思いますし、そのほうがむしろ効率的でいいものができるし、皆さんの目に見えるというのが最も一番大切だと思います。

さらに、なぜ菌体を使うかということ、やっぱりにおいなんです、一番の問題はね。当然そこで働く人もそうですし、そこを使う、使うぐらいのときはもうにおいはなくなっていると思いますけども、非常ににおいがきつかったりするんです。やっぱりね、働く人もそこで健康に働いていただきたいし、地域住民も、私は隣からも臭いなんか一言も言ったことも言われたこともないんですけども、その思いが伝わるという

プラントにしていかないと、やっぱりいろんなことが出てくると思うんです。そういうことを大切に考えていけば、必ずいい堆肥になると私は信じていますし、ぜひそのように考えていただきたいなと思います。

この辺、破碎機についてですが、その辺農林課長はどう思っているかちょっとお聞きしたいんですけど、投入時の破碎機の導入ですけども。

○小関勝助議長 孫田邦彦農林課長。

○孫田邦彦農林課長 今、生ごみにつきましては、各家庭で細かく破碎していただいて、乾燥させていただいて提供いただいているわけでありまして、現在のシステムであれば、破碎機はちょっと必要ないのではないかなというふうに一応考えております。

また、施設の改修につきましては、やっぱり一番問題になるのは一次発酵槽の部分をどういうふうに改修をしていくかと。二次発酵槽、三次発酵槽の部分についてはまだまだ使えるわけですので、そこをどういうふうにしていくか、また新たな菌を使ってやっていくのかというのが課題になるかと思えますけれども、その部分についてはレインボープラン推進協議会等にも話をしながら、今後詰めさせていただきたいなというようなことで考えております。

○小関勝助議長 2番、梅津善之議員。

○2番 梅津善之議員 もう一つ菌のことを申し上げますと、例えば自分たちが食べる納豆とかみそとかヨーグルトも同じ、あとは今はやりの塩麴ですか、それも基本的には発酵してできたものを体内に入れて、健康になるというかね、そういうことがあります。堆肥もやっぱり同じなんです。発酵してできる有効菌っていいですかね、微生物群を田畑に返してやるのが、一番早い、いわゆる化学肥料で疲れた土が戻る一番の早い手だてでないかなと私も思っていますし、何より発酵する時間が短縮できるというこ

とが、当然そのコストの面でも早く回転できる
と思っておりますので、その辺が有効菌を使う
ことが何よりいい堆肥が早くできるということ
だと思っておりますので、ぜひその辺も使って
やっていただきたいと思ひますし、先ほど家庭
で破碎してくるというような話を農林課長から
いただきましたけども、決して私、生ごみを見
てきましたけども、十分でない。あの破碎の
仕方がもうちょっと細くなっていると、もっ
と早く循環してくる。一次発酵槽からも出てく
るような気がしますし、早く発酵できるし、例
えばよく言われるその塩分が高いとか何かっ
ていうのも、一次発酵槽の中でもうとんでい
けるような状態にもっと小さいとなるはずな
んです。ぜひその辺もご検討いただいて、い
い堆肥をつくっていくような努力をしていけ
ればなと思ひます。

小さいころ、一生懸命虹、レインボーを、私、
レインボー、虹の下に手をかざすと手が虹色
になるんじゃないかなと思ひて、自転車です
ずと虹を追っかけていったことがありまして、
どこまで行っても追いつかなかった覚えが
あります。

市民には、ぜひその農産物として手にと
つてわかるようなレインボープランにしてい
くべきだということも、多分それは市長も同
じ考えであると思ひます。みんなの口に堆
肥が、農産物、野菜や果物になって手にと
るような、わかるレインボープランになっ
ていただきたいと思ひますけども、その辺
は、市長、いかがですか。

○小関勝助議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 梅津議員おっしゃるよ
うに、それがレインボープランとして、今
までなかなか実現できなかったんですけども、
市民の皆さんにも実感してもらえるよ
うに、もっと私ども行政も工夫しな
きゃいけないのかなというふう
に思っておりますので、ぜひ
そういう技術的など、やっぱり農家の方
のご協力もないと、これは到底実現でき
ませんし、またレインボー

プラン推進協議会の皆さんと、そして台所
からご協力いただいている市民の皆さん
にもいろいろ意見をいただいて、ぜひ実
現できるように努力したいと思います。
よろしくお願ひしたいと思ひます。

○小関勝助議長 2番、梅津善之議員。

○2番 梅津善之議員 農林課長にちよ
っとお願ひしたいんですけども、レイン
ボープランの、先ほど菜ナポートでの5%
の還元率とかを教えてくださいたく
なすんですけども、認証制度を受けた
生産者の数なんかはどのような推移で
来られたかちょっと教えてくださいたく
なすんですけど。

○小関勝助議長 孫田邦彦農林課長。

○孫田邦彦農林課長 レインボープラン
の認証の生産者の数でありますけども、
平成19年当時は39戸ですね。あと、
平成15年、一番多かったときであり
ます、面積が多かったときでありま
すけども、35戸。あと、24年につ
きましては23戸というようなこと
で、大体20人から30人ぐら
いの間で推移している状況でござ
います。

○小関勝助議長 2番、梅津善之議員。

○2番 梅津善之議員 ありがとうございます。
済みません、突然お聞きしまして。や
っぱりなかなかふえていないという
現状があると思ひます。ぜひ改善し
ていきたいものだなと私自身も思
っておりますので、よろしくお願ひ
します。

あと、市長、もう一つお願ひしたい
んですけども、きのうから財政のこ
とについてのお話が各議員からござ
いましたけども、このレインボー
プランのコンポストセンターの更
新という、このまちづくりに関する
こういうことと、長期的な財政とい
うような面を考えたときに、ある
程度はレインボープランのプラ
ントにも、更新時期だから、かけ
ていかなきゃいけないという考
え方でいらっしゃると思ひま
すけども、その辺はどうお考
えでしょうか。

○小関勝助議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 梅津議員おっしゃるように、これは市の一つのまちづくりのシンボルでございますので、今後もずっとこれはコンポストセンターは維持していかなくちゃいけない。そうしますと、老朽化しておりますので、先ほど申し上げましたように、大規模な改修でいくのか、あるいはそのシステムとか何かも含めて、今中央地区だけですよね。市内全域に広げて、さらに新しい形でのプラントをつくってやるのかということについて、去年、おとしあたりからずっといろんなデータを調べて検討していますが、そろそろ決定しなくちゃいけないと思いますし、その際は、やはりこういったものは確かにいろんな意味で我々の次世代に借金という形ではお願いしていかなくちゃいけないんですけども、それは今だけ使うのではなくて、ずっと使うものですから、これは道路と同じで、ある程度ご理解いただけるのではないかと考えています。その規模は、どうするかですね。そこはぜひ議会の皆さんと検討していきたいと思っております。

○小関勝助議長 2番、梅津善之議員。

○2番 梅津善之議員 これは個人的な考えなんですけども、やっぱりやるなら徹底してやる。そうでなければ、そうでない判断もしなければいけないときがあるのではないかと、自身思っておりますし、ちょっとレインボープランのその立ち上げ当時の話をお聞きしましたら、当時の市長が、私は政治生命をかけてもやるんだというような話でできたレインボープランだとお伺いしております。16年、17年目に入った今、どうしても大切なレインボープランだと思えば、ぜひその妥協を許さずというか、中途半端なことではなくて、全体をクリアするような、市民が一体となってレインボープランが実感できるような考え方に立って、ぜひ改修していただきたいものだなと思っておりますし、そう願っております。それがまちづくりであったり、市民の健康

づくりであったり、大きく広がる長井市民のレインボープランになる一つだと思っております。ぜひその辺もご検討いただいて、前向きに考えていただきたいものだと思います。市長、お願いします。

○小関勝助議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 その当時の市長が政治生命をかけてやるという判断は正しかったとは思いますが、けれども、やはり今やらなくちゃいけないことはたくさんあるわけですから、どうしても選択と集中ということは必要だと思っております。

ただし、レインボープランのコンポストセンターは今あるわけですから、今後、今、梅津議員がおっしゃったさまざまな課題、それをどのように克服して、どのように市民生活に還元できていくのかという費用対効果もやっぱり考えなくちゃいけない。

あと、順番ですよ。今現在、コンポストセンターは曲がりなりに正常に機能しているわけですから、非常に老朽化しているということですから、ですからやるなら中途半端でなく大がかり。大がかりにするんだったら、それなりの成果をどこで、あるいは大方の市民の皆さんが、その当時は正しかったと思いますが、これからどのぐらいかければいいのかということ是非常に難しいと思います。ですから、今例えば長井市の課題は一番何なのかということもぜひ議論しなくちゃいけないと思っております。農業もちろん大切です。製造業も大切です。あと、働く場ですよ。それが農業によって働く場、もちろん製造業によって働く場というのはできるわけなんですけども、そういった総合的なこともぜひ議論しながら、この結論、皆様と一緒に結論を出すべきだと思っております。

私は、レインボープランは非常に重要だということは思っておりますし、何よりも市の市政功労の団体として私も提案しておりますので、こ

れからも長井市のシンボル、あるいは、何でしょうかね、地方の希望の光としてこの考え方をずっと次世代に引き継いでもらえるように頑張りたいと思っています。

○小関勝助議長 2番、梅津善之議員。

○2番 梅津善之議員 なかなか市長としても難しいなというような答弁でお伺いしておきますけども、何ていうかな、循環していないんじゃないかなんていう失礼な言い方を私は質問に書いておりますけども、みんなで、全体でやっぱり実感できないと、どうしてもその一体感が無いというような気がしますし、農家としても一市民としてもそんな気がします。ご苦労なされて分別して出している方、それを堆肥センターで堆肥にしている作業員の方やそれを使う農家の方などの輪を幾らでも広げていくような努力をしていく必要があるんじゃないかなと思っております。

前向きなレインボープランを今後も進めるということをお願いして、質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

○小関勝助議長 以上で一般質問は全部終了いたしました。

散 会

○小関勝助議長 本日はこれをもって散会いたします。

ご協力ありがとうございました。

午前11時48分 散会